

## II — A — 18

## ループス腎炎に対する柴苓湯の効果

大垣市民病院 内科

○鹿野昌彦、沖 良隆、青木孝彦

【目的】全身性エリテマトーデス（SLE）の患者にとって、ステロイド剤は治療に不可欠な薬剤であるが、同時に副作用も問題となる。これらの副作用はステロイド使用量が多いほど生じ易いと考えられており、最小限のステロイド量にてSLEをコントロールする必要性がある。柴苓湯はステロイド類似作用を認め、ステロイドとの併用効果が認められており、副作用も極めて少なく、膠原病患者に対してもその効果が期待されている。今回、SLE、特にループス腎炎患者に対して柴苓湯を投与して、その効果を検討したので報告する。

【方法】対象はSLE患者12例である。いずれの患者もステロイド剤を内服しているが、最近ステロイド量の変更は行われておらず、比較的安定期の患者である。ステロイド投与量はプレドニン換算で5～10mg／日である。11例において腎生検を行い、組織学的にもループス腎炎の診断を得ている。従来の治療法に柴苓湯を5～9g／日を追加投与してその効果を検討した。投与前と投与6カ月後に24時間クレアチニンクリアランス（24hCcr）、尿検査、免疫学的血液検査などを施行して効果判定を行った。

【結果】柴苓湯投与6カ月後までに臨床症状の悪化を認め、ステロイド剤の増量を認めた症例は1例もなかった。蛋白尿に対する効果では、改善5例、不変5例、悪化2例であった。蛋白尿の程度に分けて検討すると、明らかな蛋白尿（1g／日以上）の患者4例では蛋白尿の程度は柴苓湯投与にても不変が3例、悪化が1例であった。しかし、微量アルブミンの段階の患者8例では、改善5例、不変2例、悪化1例であった。24hCcrに関しては改善2例、不変10例であった。抗DNA抗体に関しては改善3例、不変8例、悪化1例であった。補体値（C<sub>3</sub>）に関しては改善3例、不変9例であった。

【考案】ループス腎炎患者にステロイド剤と併用で柴苓湯を6カ月投与した。この間、臨床症状の悪化にてステロイドの増量を認めた症例はなかった。また蛋白尿の改善を約半数に認め、腎機能や免疫血液検査値に改善を認めた症例もあった。柴苓湯はループス腎炎に対して有効と考えられた。